

## 原則10: 管理活動の実施

組織によって、もしくは組織のために実施される管理森林内での管理活動は、組織の経済、環境、社会的方針と目的に一致したもののみが実施され、すべての面においてFSCの原則と基準を遵守するものであること。**(新規)**

10.1 組織は、収穫後あるいは管理計画に従い、天然更新または人工更新により、迅速に収穫前の状態もしくはより自然に近い状態に植生を再生させなければならない。**(新規)**

10.1.1 すべての収穫地は以下の要件を満たし、迅速に更新されている:

- a) 例えば侵食の危機にある裸地のような、収穫作業に影響された環境価値を保全している。
- b) 管理森林からの全体の生産量を維持もしくは向上させるために、適切な方法が取られている。これには収穫前もしくはより自然に近い森林組成、構造、生産量、最大の固定量、施業対象樹種の最適な成長量を回復させることが含まれる。

10.1.2 以下を満たすように森林更新活動が実施されている。

- a) 収穫前の状態、もしくはより自然に近い状態を作り出すための更新の目的が適切である。
- b) 環境評価により、自然植生の特徴が明らかとなっている。
- c) 年間可能伐採量が明らかになっている。

10.2 組織は、更新を行う際には、生態学的に地域に適合するとともに管理目的に沿った種を用いること。他の種を用いる明確かつ正当な理由がない限り、在来種およびその地域固有遺伝子型を持つ種を用いること。**(V4基準10.4)**

10.2.1 地域固有でない遺伝子型を持つ種や、他地域の種を用いる明確かつ正当な理由がない限り、更新のために用いられる種は地域固有遺伝子型を持つ種であり、生態学的に地域に適合している。

10.2.2 更新のために用いられる種は更新の目的に沿っている。

10.3 組織は、外来種を使用する際は、侵略的影響が制御できることが知見または経験により示され、効果的な影響低減措置が存在するという条件を満たさなければならない。**(V4基準6.9、10.8)**

10.3.1 直接的な経験や科学的な調査結果により、影響が制御でき、導入された場所から外への拡大が制御できると示された場合にのみ、外来種が使用されている。

10.3.2 侵略的な外来種の拡大は制御されている。

10.3.3 組織の導入した種の侵略性を制御する仕組みと方法に効果が無い場合、外来種を駆逐するためのプログラムが考案され、実施されている。

10.4 組織は管理森林内で遺伝子組み換え種を使用してはいけない。(V4基準6.8)

10.4.1 遺伝子組換え種は使用されていない。

10.5 組織は生態学的にその植生、種、場所に適合するとともに管理目的に合致した育林施業を行わなければならない。(新規)

10.5.1 生態学的にその植生、種、場所に適合するとともに管理目的に合致した育林施業が行われている。

10.6 組織は肥料の使用を避ける、あるいは避けるよう努めなければならない。また肥料が使用される際には、環境的価値の劣化を防ぎ、影響があった際には、影響を軽減するもしくは価値を回復しなければならない。(V4基準10.7)

10.6.1 肥料の使用を避けられている、あるいは将来的に使用を停止するために、使用量が減らされている。これには肥料に頼らない育林施業を実施することによる肥料使用量の削減も含まれる。

10.6.2 肥料が使用される際には、それらの種類、使用頻度と量が記録されている。

10.6.3 肥料が使用される際には、環境的価値の劣化を防ぐ対策が取られ、環境価値が守られている。

10.6.4 肥料の使用によってもたらされた環境価値の劣化は、軽減されるか、価値が回復されている。

10.7 組織は化学薬品を使用した病虫害駆除を避ける、あるいは避けるよう努め、総合的な病虫害対策と育林の体系を構築しなければならない。またFSCの方針により禁止されているいかなる化学薬品も使用してはいけない。化学薬品を使用する際には、環境的価値の劣化と人体への健康被害を防ぎ、影響があった際には、影響を軽減するもしくは環境価値と健康を回復しなければならない。(V4基準6、10.7)

10.7.1 育林体系の選択を含む総合的な病虫害対策が実施されており、化学薬品の使用が避けられている、もしくは将来的に使用を停止するために使用頻度、使用範囲、使用量が減らされている。

10.7.2 FSCの禁止薬品方針により禁止されている化学薬品は、FSCから特例使用承認を得ていない限り、管理森林内で使用していない。

10.7.3 化学薬品を使用する場合、商品名、有効成分、有効成分使用量、使用日、使用場所、使用の理由が記録されている。

10.7.4 化学薬品を使用する際の輸送、保管、使用方法、漏れた際の緊急時取り扱い方法について、ILO発行文書、国の発行文書、国の法律、地域の条例により規定されている要求事項に従っている。

10.7.5 化学薬品を使用する際は、効果を得た上で使用量が最小となるような使用方法が用いられている。また周辺の景観に対する効果的な保護施策が取られている。これには以下が含まれる：

- a) 水生生物およびその他の野生生物に対して有害だと知られている化学薬品は使用しない。
- b) 使用に向かない状況(強風時など)には使用を制限する。
- c) 動植物に対し、その成分や分解後の成分が有毒となる化学物質の使用は避ける。
- d) 以下の周辺では化学薬品を使用しない緩衝帯を設ける：
  - i. 希少種および絶滅危惧種の生息域
  - ii. 貴重な植物群落
  - iii. 川岸地帯

10.7.6 化学薬品の使用による、環境的価値の劣化と人体への健康被害は避けられている。影響があった際には、影響を軽減するもしくは環境価値と健康を回復している。

10.8 組織は生物的防除を利用する際には国際的に認められた科学的取り決めに従い、その利用を最小限に抑え、モニタリングを行い、厳しく制御しなければならない。生物的防除を利用する際には、環境的価値への劣化を防ぎ、影響があった際には、影響を軽減するもしくは価値を回復させなければならない。(V4基準6.8)

10.8.1 生物的防除の利用は国内法および国際的に認められた科学的取り決めに従っている。

10.8.2 生物的防除の利用によりもたらされる悪影響から環境価値が守られている。

10.8.3 生物的防除を利用する際には、その種類、利用量、利用日、利用場所、利用の理由を記録している。

10.8.4 生物的防除を利用する際には、その利用が最小限に抑えられ、モニタリングがされ、厳しく制御されている。

10.8.5 組織の生物的防除利用によりもたらされた環境価値の劣化は特定され、軽減もしくは回復されている。

10.9 組織は自然災害の危険性を見極め、管理施業の規模、強度、リスクに応じた範囲で自然災害による悪影響が低減されるような活動を実施すること。(新規)

10.9.1 管理活動により引き起こされる自然災害のリスクが評価されている。

10.9.2 特定されたリスクを低減するために、管理活動が修正されるもしくは対策が講じられている。

10.10. 組織は水資源、土壌を保護し、希少種、絶滅危惧種、生息地、生態系、景観の攪乱と劣化を防ぎ、軽減もしくは回復するよう、設備の整備、輸送、育林の管理を行うこと。

10.10.1 既存の設備管理、新規設備の整備、輸送、育林管理の方法は以下を保証するようになっている：

1. 土壌侵食の制御
2. 希少種、絶滅危惧種、生息域、生態系、景観の価値の保全
3. 管理活動により影響を受ける管理森林内外の水質、水量の保全
4. 管理森林内外の溪流、湿地、湖・池の保全
5. 土壌保全
6. 自由な水の流れおよび水生生物の移動

10.10.2 水資源、土壌、希少種、絶滅危惧種、生息地、生態系、景観の攪乱と劣化は迅速に回復されている。またこれらが再発しないように管理活動が修正されている。

10.11 組織は、環境的価値を保護し、販売可能な未利用残材を減少させ、他の林産物およびサービスに与える悪影響を回避できるよう、木材および非木材森林生産物の収穫に関わる活動を管理すること。(V4基準5.3、6.5)

10.11.1 木材および非木材森林生産物の収穫は、基準6.1で特定された環境価値を保全するよう実施されている。

10.11.2 収穫は、販売可能な残材を最大限利用するよう実施されている。

10.11.3 収穫後の現場には、環境価値を保全するために必要十分な量の枯死、腐朽しているバイオマスおよび森林構造が残されている。

10.11.4 収穫は、環境価値の劣化を最低限に抑えるよう実施されている。

10.11.5 その他の林産物やサービスへの悪影響は回避されている。

10.11.6 収穫は、残存木および残材へのダメージを最小限になるよう実施されている。

10.12 組織は環境に配慮した適切な方法で廃棄物の処理を行わなければならない。(V4基準6.7)

10.12.1 廃棄物の収集、清掃、輸送、処分は環境に配慮した適切な方法で行われている。